

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	働く者のメンタルヘルス相談室	職名	理事長	助成金額	400,000 円
氏名	伊福 達彦	印	sodan@mhl.or.jp		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
まさかの時にどうするか。闘病記の知恵を収集、分析し明るく困難に立ち向かうための処方箋「闘病記に学ぶまさかの時の知恵」を作成「制度活用マニュアル」と併せて配布					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>今回は助成をいただきありがとうございます。</p> <p>使用の実績は 旅費交通費宿泊費 253490 円（内訳は近郊での打ち合わせに 150640 円、長距離と宿泊に 102850 円でした。） 印刷費 89610 円、資料費 14587、通信費 36834 円でした アルバイト 100000 円でした。合計で 494521 円ですが 94521 円は自己負担させていただきました。</p> <p>研究の成果につきましては 「まさかの時にどうするか うつ病編」としてまとめました。</p> <p>第 1 回目の配布は 2018 年 9 月 2 日一関での自死遺族フォーラムで「制度活用マニュアル」とともに配布しました。合計 300 冊でした。一関の催しは、主催は一関保健所と一関市、働く者のメンタルヘルス相談室が協力団体として参加しています。10 月 29 日には「大阪自死遺族府フォーラム IN 枚方」を主催者として開催、大阪府と枚方市が後援ししや。その場で「まさかの時にどうするか うつ病編」と「病に立ち向かうための制度活用マニュアル」合計 200 冊配布しました。3 月 4 日 13 時から出雲市民会館で開催される「しまね自死遺族フォーラム IN 出雲」の会場で 150 冊。主催は島根分かち合いの会・虹。協力団体は出雲市と働く者のメンタルヘルス相談室。3 月 13 日から 20 日まで津和野町民センターでの「自死遺族の想いを伝えるパネル展」でも 150 冊配布される予定すでに発送済みです。主催は虹で、協力団体は津和野町と働く者のメンタルヘルス相談室。これと別にユニオン大阪、労働人権サポートセンター、武庫川ユニオンを通して 400 部配布しました。配布数合計はまさか冊子 1000 冊制度活用 200 冊でした。なお「まさかの時にどうするか うつ病編」は 3 月末にホームページで公開する予定です。</p> <p>URL は (www.mhl.or.jp)</p> <p>研究に協力いただきました研究者は 伊福達彦（働く者のメンタルヘルス相談室 理事長） 大倉高志（東海学院大学健康福祉学部准教授） 小森田 龍生（専修大学社会学部講師） 福若 真人（京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程）</p> <p>スタッフは 野口 知恵（社会福祉士、精神保健福祉士） 坂野 高泰（社会保険労務士）</p> <p>顧問に 清水新二奈良女子大名誉教授、釈迦病理学会会長</p> <p>出来上がりました成果物には貴財団さまからの助成によると表紙に表記しています。 自殺予防学会発表は来年 9 月の予定</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		